

## ■2023年度B日程 一般入学試験

### 「小論文」問題の出題趣旨・解説

#### 【出題趣旨】

〔問〕は、問題文を読解し、筆者の指摘する現代社会における成人モデルに関する筆者の見解及びその論拠を適切に理解したうえで、「現代社会における成人」像及びその成因について各自の見解を問うものである。受験者には法曹を目指すために必要な読解力、考察力、そして論理的な文章表現力を求めている。

#### 【解説】

##### 1. 解答にあたっての注意事項と解答方法について

解答にあたっては、問題表紙に、①解答の訂正方法(斜線又は横線での消去と次のマス目からの書き直し)、及び、②記入方法(記入欄・横書き)が指示されており、当然それに従った解答が求められる。

この指示に従っていない場合、例えば、訂正した同じマス目の中や余白に訂正後の解答を書いたり、解答欄外に訂正後の解答を書いたりするなど、指示に従わずに解答を訂正している場合は、その部分は記入がないものとみなすなどして採点を行った。

また、誤字・脱字は言うまでもなく日本語能力の問題であり、採点基準に含めている。

##### 2. 〔問〕について

〔問〕に対しては、かつては身体の成熟度等を指標に明確な線引きが可能であった成人・非成人の境界線が曖昧になってきていることを前提に、現代においてその境界線をどういった指標をもって示すことが可能か答える必要がある。

さまざまな検討が可能であるが、例えば、筆者がかつての「成人式」が勤労青年のための行事であったと指摘していることから「勤労」の有無を指標にすることも考えられる。もっとも、個人の進路によって勤労のタイミングがズレることには何らかの応答が必要と思われる。また、「社会への参画」の有無に着目すると、勤労のみならず、選挙権(参政権)の取得も1つの指標になりうる。この場合、選挙権の行使の意義についても触れる必要があるだろう。その他、「明確な線引き」という点に着目するならば、今日における高等学校の就学率の高さを前提に、大多数の者が属する同じ環境から、進学・就職などさまざまな選択肢が広がる環境への転換期である「高等学校の卒業時」を指標とすることも考えられる。いずれにせよ、自分の考える「指標」の提示と、それがなぜ「指標」足りうるのかに関する説得的な理由付けがなされていることが重要である。

以 上